

2023 年度静岡県立大学入学式式辞

2023 年 4 月 7 日木曜日

静岡県立大学学長 尾池和夫

静岡県立大学短期大学部に入学の 115 名の皆さん、学部に入学的の 678 名、大学院博士前期課程に入学的の 112 名、博士後期課程に入学的の 21 名の皆さん、ご入学まことにおめでとうございます。静岡県立大学の役員、教職員を代表して皆さまを歓迎いたします。ご家族の皆さまにも、心からお祝い申し上げます。

最近の 10 年を振り返ってみますと、2010 年に 9.7% であったスマートフォンの日本の世帯普及率が 90% を超えることになり、今では世界人口の 67%、約 51 億 1,200 万人がモバイルユーザーとなっています。また、世界人口の 57% がインターネットユーザーとなっています。これからの世界では人工知能が利用されます。人工知能 (AI) には、トレーニングによって特定の作業をする「弱い AI」から、汎用人工知能 (AGI)、超人工知能 (ASI) で構成される「強い AI」までがあり、近未来には実現することになるでしょう。

すでに人工知能で卒業式の式辞を書いた学長もおられますが、本日の入学式に当たって私も AI を使うことを試みました。昨年 11 月に公開されたアメリカ合衆国の OpenAI が開発した、対話型 AI である ChatGPT を用いました。これはすでに 1 億人を超えるユーザーが登録しています。

まず ChatGPT に次のような質問をしました。

「間もなく、静岡県立大学の入学式です。大学生に静岡県で学習するときが一番重要なことは何か、入学式で学長の式辞に加えたいのですが、どう言えばいいでしょうか？」

この質問に対して ChatGPT の答えは次のように詳しい内容でした。

「静岡県立大学の入学式、おめでとうございます。静岡県は、日本有数の豊かな自然と歴史を持ち、さまざまな魅力がある地域です。大学生活は、自己実現のための大切な時間であり、学生の皆さんにとって充実した学びと経験を積むことが求められます。

静岡県で学習するにあたって一番重要なことは、地域に根ざした視点を持つことだ

と考えます。静岡県には、独自の歴史や文化、産業、自然環境などがあり、これらを理解し、地域の課題に取り組むことが大切です。また、静岡県は、地震や台風など自然災害が多い地域でもあります。災害への備えや防災意識も、静岡県で学ぶ上で重要な視点の一つです。」

ChatGPTの答えをそのまま読みましたが、いかがでしょうか。学長の仕事さえAIがやってくれる世界になったように感じます。

さらに次の質問を加えました。

「静岡県立大学に入学した学生が最初に何をしたらいいでしょうか」

AIの答えは次の通りでした。

「静岡県立大学に入学した学生が最初に取り組むべきことは、大学のキャンパスや周辺地域の探索だと思います。大学には、図書館や研究室、教室など様々な施設があります。また、キャンパス周辺には、学生寮や飲食店、コンビニエンスストア、銀行、病院などがあり、大学生活に必要な様々な場所が集積しています。

まずは、大学のキャンパスを歩き回り、大学生活に必要な施設や場所を把握することが重要です。また、キャンパス周辺の地域についても探索し、地域の特色や魅力を知ることができると良いでしょう。地域に根ざした学びや活動を通じて、地域社会との関わりを深めることができます。

そして、大学には多くのクラブやサークルがありますので、自分が興味を持つ分野のクラブやサークルに参加して、学生生活を充実させることも大切です。同じ趣味や興味を持つ仲間と出会い、交流することで、学生生活がより豊かなものになるでしょう。」

いかがでしょうか。実に良くできています。このまま終わってもいいような式辞です。人類の特徴である高度な言語による情報伝達と創造の能力は、科学と技術と学術と芸術を生み出しています。中でも技術は便利であるが危険を伴うものです。技術の成果を利用する場合に、国と企業の意味決定が間違ふと取り返しのつかない事故を起こすという実例を、日本は福島第一原子力発電所の事故で学びました。国民が原発は危険だと思ふといけなからという間違ふ理由で、科学者が予測していた大津波を防ぐ対策をしないと決めたために起こった事故でした。この事故について、ChatGPTの見解を読みます。「福島第一原子力発電所の事故は、それまでの地震対策を超える規模の自然災害であったため、現行の対策では不十分であったことが露呈されました。そのため、巨大地震の発生を予測していた地震学者の警告が十分に受け入れられ

なかったという批判があると考えられます。」というものでした。

これからの私たちは、技術に対して正しく強くかつ倫理的に向かうことが必須であります。ChatGPTのように、人工知能の利用が急激に展開している今、きわめて慎重な対応が議論されています。皆さんも大学における学習の中で自らの考えをしっかりと持って、人工知能に向かうことがたいへん重要であるということを改めて認識していただきたいと思います。文部科学省でも「ChatGPT」などの学校現場での取り扱いを示す資料を作成する方針ですから、そのような社会の動きにも気を配っていることが必要です。

念のために、先ほどの人工知能の式辞には具体的な内容が不足していますので、少し補っておきます。静岡県には最高峰の富士山、駿河トラフの深い海、豊かな大地の里山と都市があります。その大地の仕組が理解していただけるように、私も地球科学者として知の蓄積を紹介していきたいと思っています。学長ブログには「静岡の大地を見る」というシリーズがあり、静岡のことを地球科学者として紹介しています。

この大学の隣には静岡県立美術館があり、多くの作品が常時展示されており、またさまざまな企画展が次々と開催されます。本学に入学された皆さんはこの美術館も無料で利用することができます。ロダン館にはロダンの「地獄の門」の彫像を中心として32体の彫刻があり、明るい大空間を歩きながらゆっくりと観ることができます。将来皆さんがどのような分野に進むとしても、必ず芸術やデザインのセンスが重要になります。人類の特長である芸術と学術の世界が連携することが重要であり、そのセンスを磨くために隣の美術館を利用してください。

草薙キャンパスの上の方には、薬学部附属薬用植物園があります。薬学部での学習に必要な植物の栽培、収穫、研究を行いながら、広く一般の人びとなどにも生涯学習の場を提供することを目的に、1989年、静岡県立大学の開設と同時に設置されたもので、栽培植物約800種があります。一般にも開放しており、見本園、温室は見学自由です。

小鹿キャンパスのすぐ近くには世界に知られている創業1946年5月8日の株式会社タミヤがあります。豊かな楽しさで、充実したホビーライフをというモットーで、優れた品質と積極的な技術開発で世界の模型ホビーをリードし続ける会社です。遊びと芸術とはあ

らゆる分野で未来を開くために重要な要素となります。

学内では、短期大学部で子どもの遊びが研究されています。ホスピタルプレイという分野があり、入院して手術を受ける子どもが安心して手術室に入ることができる準備を病院内で実施する技術を日本全国に発信しています。

本学の草薙キャンパスにある本部棟の1階の壁に「遊」の一文字を掲げました。「遊び」は人類の典型的な特徴の1つです。この「遊」という一字は、静岡県森町出身の世界的な書家である杭迫柏樹さんに書いていただきました。王羲之の研究家でもある彼は、中国でもよく知られています。富士山空港にある書も杭迫柏樹さんによるものです。

学術の世界でも「何の役にたつか」ということが最初にあるのではなく、ひたすら面白いからという理由で研究が行われます。しかしそれが結果的にはいつか役立つこととなります。私は20歳の頃、大学で知った地震学が面白くて固体地球物理学の世界に入りました。それによって今では静岡の大地の仕組みを理解していて静岡の方たちに説明するという点でも役立っています。

静岡県には大きな港がたくさんありますが、その中の1つである清水港は、世界一の海底掘削調査を行う「ちきゅう」の母港になっています。南海トラフの海底も掘削して富士山から土砂が四国の沖にまで流れていることが実証されています。

本学の卒業生の声を聞くと、さまざまなことがわかって私たちの大学運営にも役立ちます。昨年の学生から届いた意見の中に目安箱を設置するという提案がありました。酒井副学長が目安箱を自作してくれました。皆さんの大学は皆さんの授業料と静岡県民の税金で、教育と研究と社会貢献が行われます。これらを、予算を効率よく活かしながら実行するのが大学の運営です。大学をよくするのは皆さんの意見です。それを職員が活かすように仕事しています。

皆さんが入学したこの大学の歴史を簡単に紹介します。静岡市葵区北安東に静岡県立城北高等学校があります。毎年この大学にも10名以上の卒業生が入学される高等学校です。1951年、その敷地に静岡県立女子短期大学が開学しました。それが本学の始まりです。その後、静岡県浜松市にキャンパスを移し、さらに1916年設立の私立静岡女子薬学校を源流として1953年に設置された静岡薬科大学、1967年に始まった静岡女子大学とを統合して、1987年（昭和62年）に静岡県立大学が発足しました。こ

のように本学は永い歴史を持つ大学ですから、多くの卒業生たちが世界で活躍しています。そして同窓会を通じて、あるいは個人として、本学に多大のご支援が寄せられています。それが皆さんたちの奨学金となり、課外活動の資金となり、直接的、間接的に皆さんの学習の大きな支えになっています。このような本学の歴史は、人工知能はまだ語ることはできませんでしたが、それでも今私が話したことの内容はすでに何らかの形でオンライン情報の中にあって、検索して確認できる状況です。今日入学した皆さんのご活躍で、人類の英知が技術とうまく連携するようになる未来が展開することを私は期待しています。

皆さんは、静岡県というすばらしい環境の中で、これからの学園生活を大いに愉しんでほしいと思います。在学の期間はあっという間に過ぎていきます。学習とともに大いに静岡県を歩いて、その魅力を世界に向かって発信する人となって卒業していただきたいと思います。心身の健康に充分留意され、学園生活を謳歌してくださるようにと祈り、私のお祝いの言葉とします。

入学おめでとうございます。ありがとうございました。